

# 「教育のICT化に向けた環境整備5ヵ年計画（2018～2022年度）」 概要

## ☆目標としている水準

- 学習者用コンピュータ⇒ 3クラスに1クラス分程度整備
  - 指導者用コンピュータ⇒ 授業を担当する教師1人1台
  - 大型提示装置・実物投影機⇒ 100%整備  
各普通教室1台、特別教室用として6台  
(実物投影機は、整備実態を踏まえ、小学校及び特別支援学校に整備)
  - インターネット及び無線LAN ⇒ 100%整備
  - 統合型校務支援システム⇒ 100%整備
  - ICT支援員⇒ 4校に1人配置
  - 上記のほか、学習用ツール(※)、予備用学習者用コンピュータ、充電保管庫、学習用サーバ、校務用サーバ、校務用コンピュータやセキュリティに関するソフトウェアについても整備
- (※) ワードソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどをはじめとする各教科等の学習活動に共通に必要なソフトウェア

・ 1日1コマ分程度、児童生徒が1人1台環境で学習できる環境の実現



# 「GIGAスクール構想」 概要

## 文科省 方針

☆Society5.0時代を生きる児童生徒にとって、誰一人取り残すことない、公正に個別化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させる。  
☆令和時代のスタンダードな学校像として全国一律のICT環境整備を行う。

(1) 校内通信ネットワークの整備  
1, 296億円

- 児童生徒1人1台端末の利用を可能とする高速大容量の通信ネットワークの整備
- 電源キャビネットの整備
- 国1/2補助(補正予算債100%)
- 補助は令和2年度のみ

(2) 児童生徒1人1台端末の整備  
1, 022億円

- 端末本体代の4.5万円/台を補助
- 設定・保守・ソフト・周辺機器等は、補助対象外(市独自負担)
- 児童生徒数の2/3の台数までが補助対象
- 令和3年度以降の補助は現時点では不明

← 一体的  
整備 →

補助措置要件⇒1人1台環境を達成させる計画(ICT活用計画・教員スキル向上等のフォローアップ計画)

◎各自治体は、令和5年度までに全学年で1人1台環境を達成させる

# ICTを活用した教育において目指す 学びのスタイル

## 【一斉学習】

思考の可視化

思考の共有



- ・自分の考えを資料にまとめ、大きく投影して発表する
- ・教師がデジタル教科書、教材、資料の図、映像を大きく提示し、書き込みをしながら説明する
- ・教師が一斉授業で課題を提示する
- ・前時の学習を振り返り、本時の学習につなげる

## 【個別学習】

試行錯誤

基礎・基本の定着



- ・学びの記録・振り返りを行う
- ・まとめた内容を比較提示する
- ・資料収集、データ分析、シミュレーション作業を行う
- ・調べたことや身に付けた知識から課題を設定する
- ・各教科等においてプログラミング学習を行う

## 【協働学習】

試行錯誤による考えの練り直し



- ・問題解決に向けて、タブレット端末をツールとして試行錯誤しながら話し合う
- ・グループでの調べ学習、討論、学習のまとめ、プレゼンテーションを行う
- ・各教科でのグループ活動や実験、観察等を動画撮影し、クラスで共有する
- ・地域の人へのインタビュー活動を行う

## 子供たち1人1人に個別最適化され、創造性を育くむ教育ICT環境を

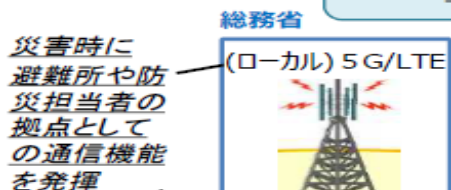
～内閣官房及び3省が連携して令和時代のスタンダードとして学校ICT環境を整備し、公正に個別最適化され、AIに代替されない創造性を育める学びの場の実現へ～

内閣官房IT総合戦略室  
総務省  
文部科学省  
経済産業省

### 目指すべき次世代の学校・教育現場

- ✓ 学びにおける時間・距離などの制約を取り払う ～遠隔・オンライン教育の実施～
- ✓ 個別に最適で効果的な学びや支援 ～個々の子供の状況を客観的・継続的に把握・共有～
- ✓ プロジェクト型学習を通じて創造性を育む ～文理分断の脱却とPBLによるSTEAM教育の実現～
- ✓ 校務の効率化 ～学校における事務を迅速かつ便利、効率的に～
- ✓ 学びの知見の共有や生成 ～教師の経験知と科学的視点のベストミックス(EBPMの促進)～

文部科学省（総務省、経済産業省）  
最終的に一人一台の  
学習者用PCの実現



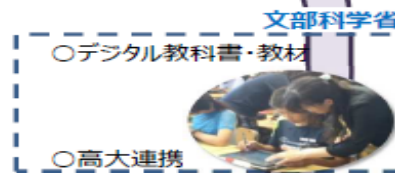
「端末」・「通信ネットワーク」・「クラウド」  
をセットで

高速大容量、機密性の高い、  
安価なネットワークの整備

クラウド活用  
総務省、経済産業省、文部科学省  
児童生徒一人一人の学  
習記録等ビッグデータの  
収集・分析

データの標準化

文部科学省（総務省）



ICTを基盤とした先端技術

文部科学省・経済産業省

○民間の教育コンテンツ  
(AIドリル等のEdTech)



児童生徒一人一人に最適なコンテンツの提供

新しい学習指導要領に基づく主体的・対話的で深い学びの実現  
遠隔教育や教師の遠隔研修の推進

学校外のデータ及び教育分野以外(医療や福祉等)のデータ

低遅延

移動体無線技術の  
高速・大容量化路線



同時接続

超高速

現在の移動通信システムより  
100倍速いブロードバンドサー  
ビスを提供

超低遅延

利用者が遅延(タイムラグ)を  
意識することなく、リアルタイム  
に遠隔地のロボット等を操作・  
制御

多数同時接続

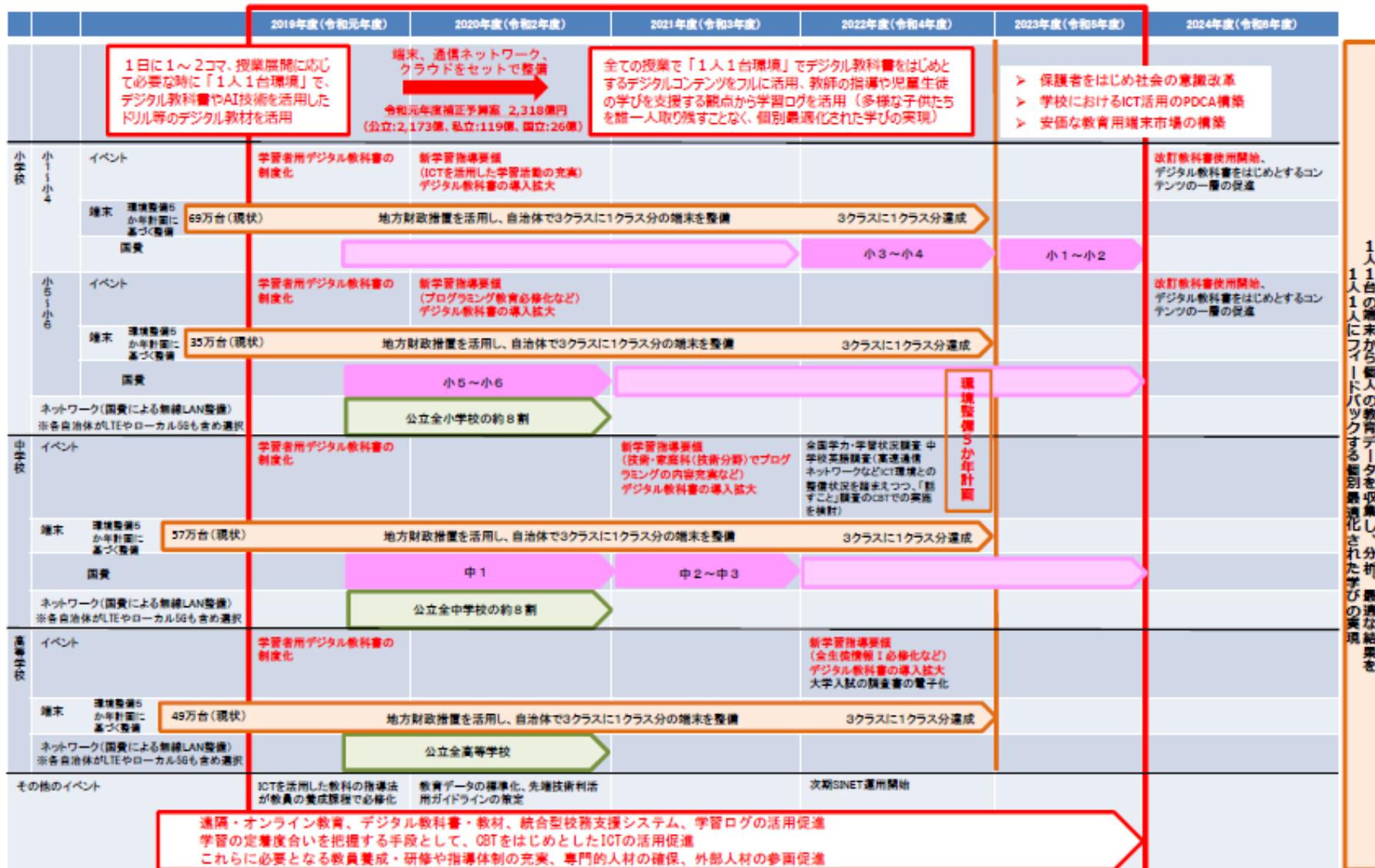
スマホ、PCをはじめ、身の回り  
のあらゆる機器がネットに接続



## GIGAスクール構想の実現 ロードマップ

～令和時代のスタンダードとしての学校ICT環境を整備し、全ての子ども1人1人に最もふさわしい教育を～

※Global and Innovation Gateway for All



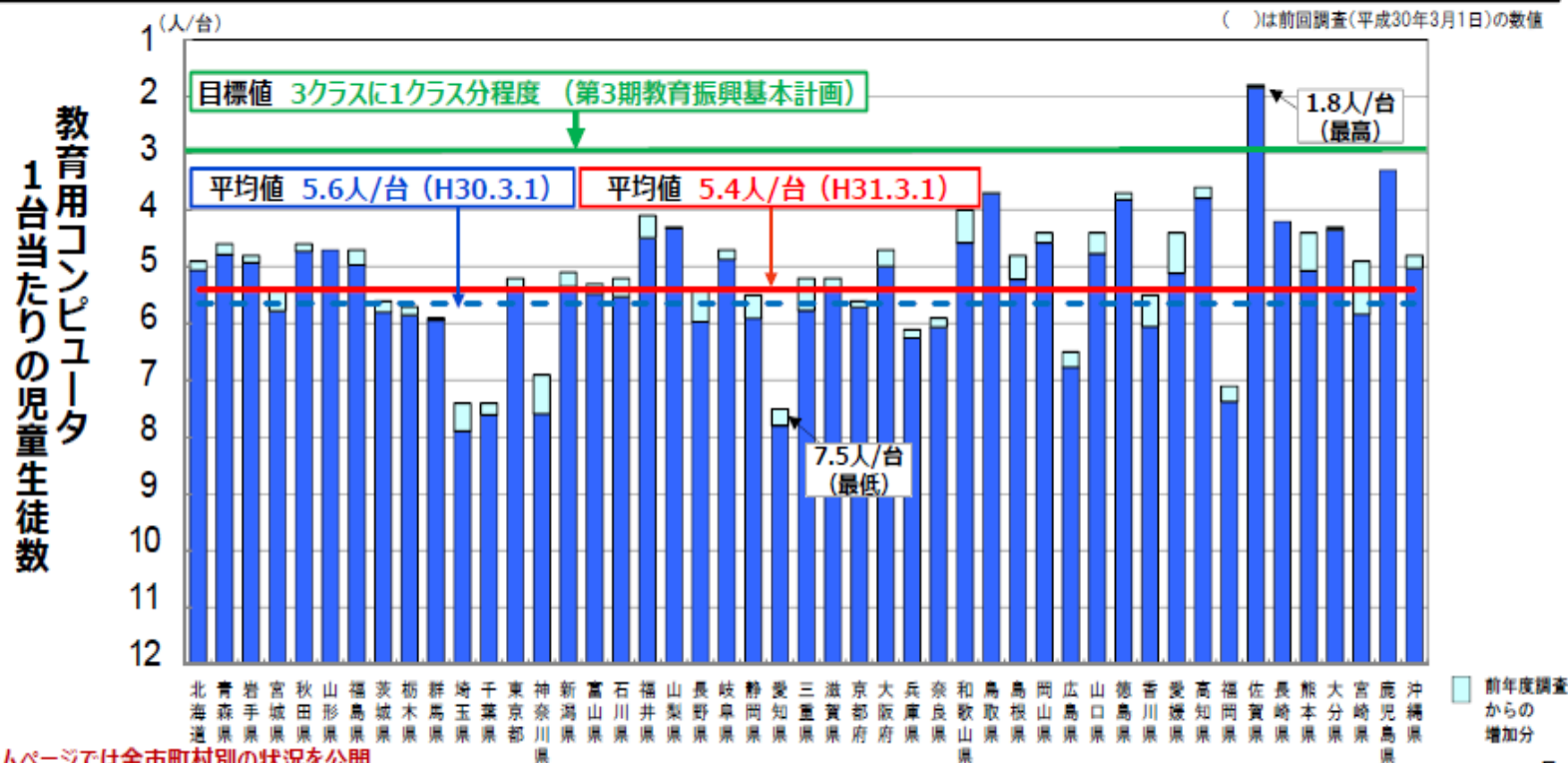
1人1台の端末から個人の教育データを収集し、分析・最適化結果を1人1人にフィードバックする個別最適化された学びの実現

## 学校のICT環境整備の現状（平成31(2019)年3月）

2018～2022年度の目標

H31年3月1日現在

①教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	5.4人/台	(5.6人/台)	(目標：3クラスに1クラス分程度)
②普通教室の無線LAN整備率	40.7%	(34.5%)	(目標：100%)
普通教室の校内LAN整備率	89.6%	(90.2%)	(目標：100%)
③インターネット接続率（30Mbps以上）	93.4%	(91.8%)	(目標：100%)
インターネット接続率（100Mbps以上）	69.1%	(63.2%)	
④普通教室の大型提示装置整備率	51.2%		(目標：100%（1学級当たり1台）)



ホームページでは全市町村別の状況を公開

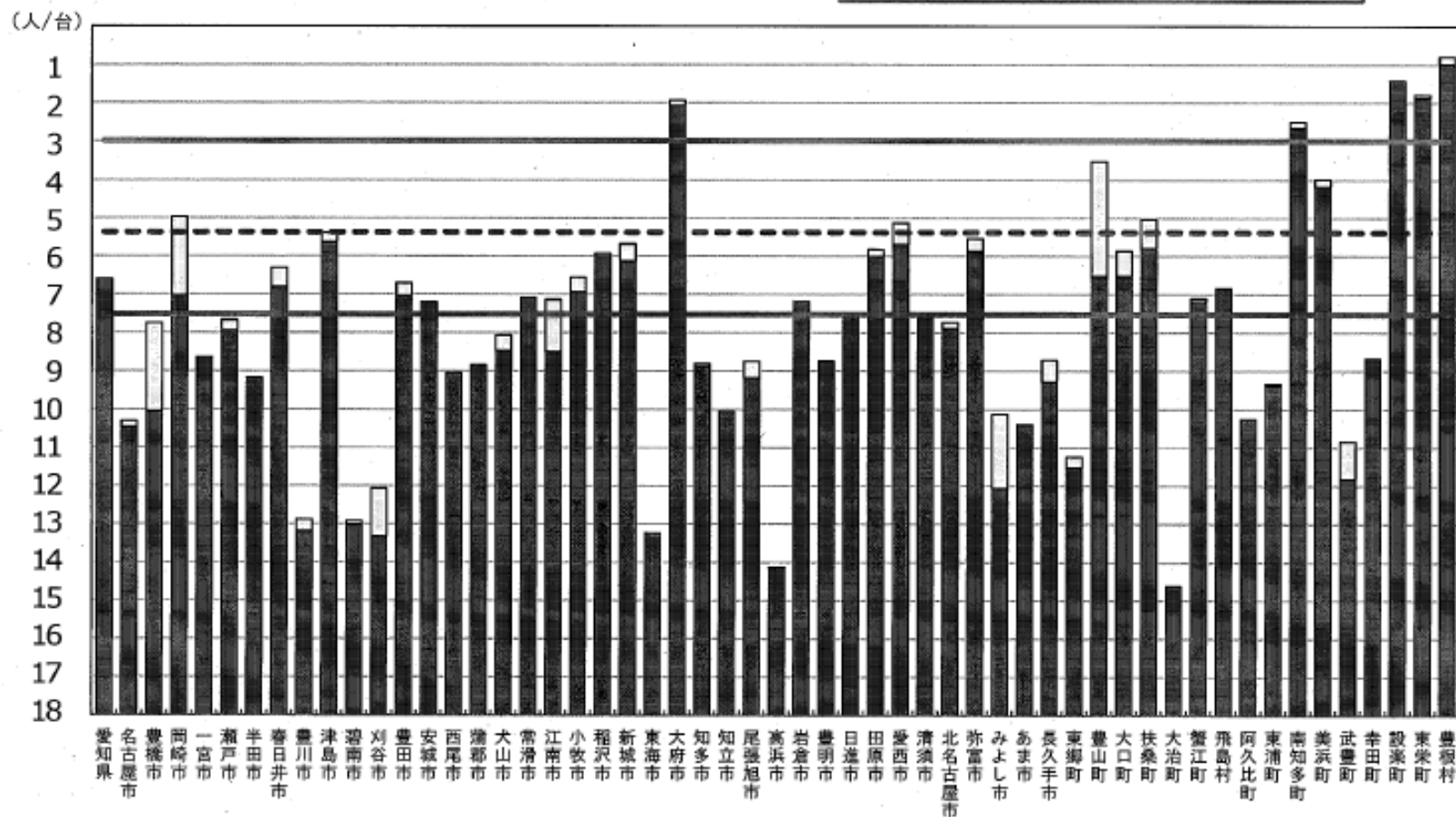
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/1420641.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1420641.htm)

(出典：学校における教育の情報化の実態等に関する調査(速報値) (平成31年3月現在))

# 教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数

[愛知県内自治体]

- 目標値 3クラスに1クラス分程度 (第3期教育振興基本計画)
- 全国平均値 5.4人/台
- 愛知県平均値 7.5人/台 (第47位)



※ 第3期教育振興基本計画(2018~2022年度)における目標値(「学習者用コンピュータ3クラスに1クラス分程度【授業展開に応じて必要な時に「1人1台環境」を可能とする環境の実現】(1日1コマ分程度を当面の目安)」。

□ 前年度調査からの増加分